

報告

京大付属病院小児科病棟訪問！

嶺重慎（京都大学）有本淳一（塔南高校）ほか黄華堂メンバー

◆概要

今年3月の東京医科歯科大学付属病院訪問に引き続き、10月には京都大学付属病院を黄華堂として訪問し、天文教室・観望会を開催した。その概要と今後の展望を報告する。

◆はじめに

病院に入院する子どもたちはどんな毎日を過ごしているのだろうか。

病院スタッフにとって、子どもたちは治療の対象である。一方、そこに入院する子どもにとって病院は生活の場であり、学びの場であり、遊びの場である。しかしながら、子どもが子どもらしく生活する環境は、必ずしも病院で保証されているわけではない。当然、多くの友達や自然に触れる機会も限られており、寂しく感じている子どもや、それをストレスに感じている家族も多いのではないだろうか。

2006年3月に、東京医科歯科大学付属病院小児科を天プラメンバーと訪問し、天文教室を開催した。その報告はすでに「天文教育」でなされている[1][2]。今回、黄華堂として、京都大学付属病院小児科を訪問したので、その報告をしたい。なお、この活動は、2006年夏に発足した「ユニバーサルデザインWG」[3]の活動の一環である。

◆準備

本番に先立ち、9月の13日と25日の2回、ボランティアグループと打合せを行った。

京大病院小児科では、ボランティアグループ「にこにこトマト」が、ほとんど毎日、週日の午後、多彩な活動を繰り広げておられる。本の読み聞かせやお話しはもちろん、理科実験も工作もある[4]。そこで、今回の企画の打

ち合わせは、すべてそのグループを通しておこなった。さまざまな意味で、とてもやりやすかった。

場所は病棟内のプレイルーム、5m四方の板敷きで全体で13畳くらいの広さ。子どもたちは座ったり、寝ころんだりして様々なイベントに参加している。また、病棟から出られない子どもたちを対象の観望会がどこかでできないかと探したところ、病棟4階端（南西の角）にソファがある待合室風の広いコーナーが見つかった。その前は地上駐車場ということもあり、南、西、それぞれ6mくらいの幅の窓からは展望が開けて空が良く見える。（空の明るさを除いて）まさに観望会として、好条件がそろっていた。

問題は時間帯。看護スタッフが手薄になる平日午後6時以降はふつう活動しない、また、観望会に予定していた場所は7時以降立ち入り禁止とのことであった。ひやっとしたが、ボンランティアの方からうまく病院側に交渉してくれて、8時までの観望会が許可されたのはありがたかった。

◆実践

開催した日は2006年10月11日(水)と12日(木)の2日間。二日目は観望会の予備日であった。

11日は、午後4時半～5時半にかけてプレイルームで宇宙や星の話やクイズ、休憩（夕食）をとって7時～8時に観望会というプログラムであった。出席スタッフは、黄華堂のメンバー7名〔有本、織田、小林(正)、林、内藤、東樋口、嶺重〕、塔南高校の生徒6名、京大小児科のボランティアから、代表の神田さんら4名。病室から出ることを許可されている子どもによびかけて、プレイルームや観

望会スペースに来てもらった。今回は、病室から出ることを許可されていない子どもに対する病室訪問はしなかった。

以下、夕刻のプレイルーム編と、夜の観望会編に分けてやや詳しく報告する。

[プレイルーム編]

プレイルームにプロジェクターを持ち込み、スクリーンは病院にお借りして行った(図1)。



図1 プレイルームにて

出席は、小学生と(恐らく)未就学児を含む6-7人、親を含めて12人くらい。内容は、今日の星空のお話(有本)、「超新星を探せ」(織田)、天文クイズ(小林)の3本立て。このうち、「超新星を探せ」は、すばる望遠鏡で遠方銀河の超新星観測をしている京大大学院生の織田さんが、自前の画像を用い、超新星出現前の画像から少しずつ出現後の画像に移し替えて、どこに超新星が出たか当てさせるクイズ。意外と難しく、皆、時間を忘れてのめりこんでいた風であった。子どもが先に分かって親が焦るなど、ユーモラスな場面もあった(でも子どもの答は正解とは限らなかった。)小林さんの天文クイズは、前に黄華堂が加島で行った観望会時に成田さんがしたクイズを改変したもの。子どもたちは始めからリラックスしていて、どの話にもものつてくれ、いい雰囲気であった。ちなみに前回の東

京医科歯科大学では、子どもをのって来させるのに苦労した。この違いの原因は不明だが、京大病院の子どもたちは、日頃から「にこにこトマト」の諸活動に参加しており、催しに慣れているせいもあるのだろう。

最後に、例によって、天文画像写真を配って個別にその解説をした。子どもたちは目をらんらんと輝かせて選び、親も子と一緒に熱心に画像を見てくれていた。プレイルームに出て来られない子どもには、看護師さんから配ってもらった。

[観望会編]

11日夜は観望会。参加は昼間とほぼ同じ顔ぶれ。

何とかなるかとねばったが、結局、全くの曇りで星はゼロ。それでも7時から8時まで、晴れるのを待つ間、スクリーンを観望会スペースにもちこんで、国立天文台作成の4次元デジタル宇宙ビューワー「Mitaka」[5]の実演と子どもたちによる操作。これは、東京医科歯科大学での経験が生きた。小さな子どもにマウスの操作は難しいがプレーステーションコントローラは使いやすいようで、順番に操作してもらった(図2)。



図2 観望会にて

また星の代わりに京都タワーを望遠鏡や双眼鏡で見てもらった。初めて望遠鏡をのぞく子どもが多く、とても興味をそそっていたようだった。なお、隣接したスペースを使って、ホームプラネタリウムの実演も行った。

翌12日夜、2日続けて曇ることは無いだろう、昼間の天気予報を見ても快晴だった、と期待に胸を膨らませて観望会に臨んだのだが、残念ながら観望会の時間、空は厚い雲に覆われて星はほとんど見えず（このときほど天気予報をうらんだことはなかった）。ということで、集まりは中止となってしまった。

◆今後の予定

ぜひとも、この活動を定期的に続けていきたいと我々は願い、またボランティアグループからも、今回のリベンジの形で、また観望会を開いて欲しいという要請があった。そこで、3ヶ月に1回程度の頻度で活動を継続することとした。昼間の時間帯は高校教師や生徒は参加できないので、大学関係者を中心にお話することとし、夜の観望会は皆で行う、というスタイルでいきたいと計画している。なお次回は2007年1月23日(火)、予備日は翌24日(水)。さすがに冬だと、最低どちらかは晴れるだろう。また、この日は三日月で、夕刻に、ちょうど窓のある南西方向に月が出る。月が出ていれば、少々雲が出ていてもよく見えるはずということで、この日を選んだ。

◆まとめ

病院訪問活動といっても、(感染症予防など、留意すべき点は多少あるが)特別なことは何もない。ぜひ、これを読まれた方、実践をして頂きたい。ふだんの活動とはひと味違った体験をされることであろう。質問や相談等は、遠慮なく嶺重まで。

◆参考文献・サイトなど

- [1]「病院での天文普及活動について」嶺重慎、高梨直紘 天文教育 vol.18, No. 2,p.40, 2006年
- [2]「病院における天文普及活動の実践報告」高梨直紘、嶺重慎ほか 天文教育 vol. 18, No. 3, p.42, 2006年
- [3]「ユニバーサルデザイン・ワーキンググループについて」ユニバーサルデザインWG 第20回天文教育普及研究会年会集録,p.74, 2006年
- [4]「小児病棟ボランティア"にこにこトマト"」
<http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/~pediatrics/nikoniko.html>
- [5]「4D2U Project」、<http://4d2u.nao.ac.jp/>

嶺重慎